

# CNJ

Know(≠No)More Cancer 私たちは、もっと伝えたい

# Speakers



No.  
**15**

Special Talk これからのがん医療を考える  
News/Report/Event Schedule  
海外がん医療 TOPICS / お知らせ



# これからのがん医療を考える

日本のリーディング・ホスピタル「国立がん研究センター」が目指す医療とは

国立がん研究センター中央病院・院長  
**西田 俊朗**

×

希少がんセンター長  
**川井 章**

×

フリーアナウンサー  
**小林 美幸**

2007年に施行された「がん対策基本法」は、今年で10年の節目を迎えました。がん医療の向上、社会的環境整備、予防対策など、がんに関係する総合的な推進を目的としてこうした法律が定められました。私たちに身近な存在である「病院」では、どのような取り組みが行なわれているのでしょうか。国立がん研究センター中央病院 院長の西田俊朗先生、同院・希少がんセンター長の川井章先生にお話を伺いました。インタビュアーは、薬剤師免許を持つフリーアナウンサーとして活躍している小林美幸さんです。

そもそも、

「国立がん研究センター」の役割とは

「医療開発の出口」に近い病院

**小林美幸**（以下、**小林**）：国立がん研究センター（以下、**NCC/National Cancer Center**）は、日本有数のがん専門の機関として知られていますが、具体的にどのような役割を担っているのかご存じない方も多いかと思えます。まずはその特徴を教えてくださいませんか。

**西田俊朗**（以下、**西田**）：がん医療は大きく3つに分けることができます。「臨床」「研究開発」「疫学的な予防」です。NCCは、それらの全体像をまとめながら日本のがん診療を牽引しています。そのほか、医療や研究に必要な人材を育てて輩出する機関でもありますね。

**小林**：大学病院でもがん治療の研究がなされていますが、どのような違いがありますか。

**西田**：大学病院は、がんのメカニズムを研究し、治療法の開発を行います。それを保険適用まで持っていくのがNCCの役割だと考えています。私はこれまで大学関係の医療機関に勤めていたことが長かったのですが、そ



**西田 俊朗** にしだ としろう

国立がん研究センター中央病院 院長。1956年兵庫県但馬地方「天空の城」の町で生まれる。1981年大阪大学医学部卒業。米国ボストンのTufts大学留学の後、2013年より国立がん研究センター東病院勤務。2016年4月より中央病院勤務。専門は消化器外科で、主に胃癌・GISTを診察。「よりよい医療を開発し、多くの人に提供できるよう願っています。自分自身が何度か入院した経験から、患者さんの目線で医療を提供したいと思います」と語る。

れぞれ違う機能があると思いました。NCCは、大学よりも「医療開発の出口」に近いんです。「どうしたら患者さんがよくなるか」に、より力を入れていると思っています。

**小林**：ほかの病院を経験されてきたからこそ見える点も多いですね。



## 川井章 かわい あきら

1961年生まれ、岡山育ち。岡山大学医学部卒業。大学病院勤務、米国留学を経て2002年より国立がんセンター整形外科（現国立がん研究センター骨軟部腫瘍科）勤務。2015年より希少がんセンター長。

**小林**…私も改正を読んで、「希少がん」などの記述が増えていると思いました。希少がんについて、NCCで行なわれている具体的な取り組みにはどのようなものがありますか。

**川井章（以下、川井）**…NCCには、3年前より「希少がんセンター」が設置されています。希少がんというのは、肉腫・メラノーマ・中皮腫・神経内分泌腫瘍など、珍しいがんの総称なのですが、当時、希少がんという言葉は医療者にとっても目新しく、どんな対策をしたらいいのかが分からなかったんです。そこでまず、2つのテーマを作りました。1つ目は「診療科の垣根を超えたネットワークを作ること」、2つ目は「問題点の発見と、その対策を考えるプレイング・マネージャーとして行動しながら情報を発信していくこと」です。最近では、垣根を超えた情報共有ができるようになってきたと実感しています。

### 病院・社会・患者が協力して行うセミナーを開催

**小林**…希少がんセンターでは、毎月第2金曜日に「希少がん Meet the Expert」というセミナーを行っているそうですね。

**川井**…希少ながんがテーマだけに、参加者は少人数かもしれないと思っていましたが、たくさんの方に来ていただけています。このセミナーは、民間企業やNPO団体、患者会などの協力により行われています。病院は

## 今後のがん医療の展望・思い

医療のプロとしての知識を提供し、それを外部の協力で発信するという、社会のアプローチがあつての試みとなっています。

**西田**…病院と患者さん、そして社会がともに対話しながらがん医療の方向を決めていくことは、これからのミッションでもあると思っています。また、開催してみても、いかに患者さんが正しい情報が必要としているかが分かりました。それに貢献していきたいですね。

### “治す医療”から“人生を考える医療”へ

**小林**…お二人が考える今後のがん医療の展望や、思いをお聞かせください。

**西田**…これまでのがん医療は、“病気を治すこと”に注力してきました。しかしこれからは、患者さんの“人生を考えて治療をいくこと”が重要です。人間としての全体像や価値観を見ながら治療法を選択していきま。そうすると、医学部は現在、理系とされていますが、医師には文系の要素も必要になります。そのほか、医療に対する社会全体の知識や理解のレベルを上げるのもNCCの使命のひとつとなるだろうと考えています。

**川井**…私はこの病院で、たくさんの方の患者さんとお会いしてきました。彼らを見てみると、「大事に人生を生きている」と感じます。彼らから学ぶところはとても多い。そのおかげで、医療者も成長していきます。医療者も患者もそれぞれ一人の人間として接していきたいですね。そして、患者さんが主体的に医療を進めていけるような体制作りができればと思っています。

**小林**…展望というと専門的なお話になるのかもしれないと思いますが、医療は“人と人”なんだなと改めて思い、心が温かくなりました。本日は貴重なお話をありがとうございました。

文／木口マリ  
写真／山本華漸

### “見えていなかったところに光を当てる”取り組みとは

**小林**…昨年行われたがん対策基本法の改正により、NCCにも変化があったのでしょうか。

**西田**…改正により、がん医療に対してこれまであまり見えていなかったところに光が当たって、見えるようになってきたんです。NCCは、がん医療のリーディング・ホスピタルとして、患者さんの就労支援、希少がん・小児がん・AYA世代（思春期・若年成人）の関心に関した支援など、十分な対応がなされていなかった点に注力した活動を始めています。

## 法改正後、がん医療に対してこれから何をしていくのか



## 小林美幸 こばやし みゆき

フリーアナウンサー。1977年生まれ、山梨県育ち。2000年千葉大学薬学部卒業後、フジテレビ系列のテレビ静岡に入社し、めざましテレビなどを担当。2006年に退社後は薬剤師として医療現場に従事。2012年4月より朝日新聞医療サイト「アピタル」の医療番組「夜間学校シリーズ」で司会を担当。2016年1月よりがん医療セミナー「ONCOLO MeetsCancer Experts」の司会を務めている。認定NPO法人がんネットワークジャパン外部評価委員。

がん患者さん、ご家族のために、  
正しい栄養情報をお届けします

## 「もつと知ってほしい がんと栄養のこと」 特設サイト開設

がん治療を受けられる患者さん、それを支えるご家族や周囲の方へ正しい栄養情報をお届けするため、「もつと知ってほしいがんと栄養のこと」サイトを2017年2月にオープンいたしました。がん患者さんは痩せていく? 体の中で起きていることとは? なぜ栄養が必要なのかを学び、がん治療を乗り切れるからだ作りの一助になれば幸いです。がんと栄養の関係、化学療法を受ける人に知ってほしい栄養のことなど、コラム、動画、冊子などで分かりやすく解説します。Facebookでも情報を発信していきますので、是非チェックしてください。



WEBサイトもつと知ってほしい  
がんと生活のこと〜容姿の変化〜

## 「治療中でも元気に見える メイクのコツ」 動画オープン

がん治療が始まると、薬の副作用などで外見にも変化が表れます。人によって程度は異なりますが、髪や眉、睫毛の脱毛、肌のくすみや皮疹など、外見の変化が気になります。「外出もしたくない」という患者さんもいらっしゃいます。このサイトでは、国立がん研究センターアピアランス支援センター・センター長の野澤桂子先生に監修いただき、容姿の変化に伴う不安を少しでも軽減するために役立つ情報をご紹介します。第一弾として、美容ジャーナリストで、乳がんサバイバーの山崎多賀子さんにご協力いただきました。美容のプロとしてだけでなく、ご自身の経験も交え、元気に見えるメイクのコツを実践で紹介しています。保湿から、ベースメイク、眉の描き方、アイラインのひきかた、ほほ紅、リップ、つけまつげの付け方まで、チャプターごとにわかりやすく解説しています。今回は女性の患者さんに向けたメイクをご紹介しますでしたが、今後は男性の患者さんへのアドバイスなども追加していきたいと思っており、男性の患者さんも募集しています。「モデルになってもいい」という方がいらつしやいましたら、[info@cancernet.jp](mailto:info@cancernet.jp) (担当 藤原) までご連絡ください。



がんと生活のこと〜容姿の変化〜  
ウェブサイト URL ▼  
<http://www.cancernet.jp/seikatsu/appearance>

血液がんの特設サイト  
「もつと知ってほしい多発性骨髄腫のこと  
もつと知ってほしい造血幹細胞移植のこと」  
開設

## 「もつと知ってほしい多発性骨髄腫のこと もつと知ってほしい造血幹細胞移植のこと」 開設

血液がんの患者・家族に向けたCNJ特設サイト「もつと知ってほしい血液のがんのこと」へ新ページとして、「もつと知ってほしい多発性骨髄腫のこと」、「もつと知ってほしい造血幹細胞移植のこと」を3月末日に開設しました。続々と新しい治療薬が承認されている多発性骨髄腫については、名古屋市立大学病院 血液・腫瘍内科の飯田真介先生監修のもと10名の医療者による解説動画が無料視聴できます。また、白血病・リンパ腫などに対する根治的な治療法である造血幹細胞移植(骨髄移植・末梢血幹細胞移植・臍帯血移植)治療については、自治医科大学附属病院・さいたま医療センター血液科の神田善伸先生はじめ5名の専門医に詳しく解説いただいています。

専門医による  
動画で学ぶ  
もつと知ってほしい  
**多発性骨髄腫**のこと  
Hematologic Cancers

専門医による  
動画で学ぶ  
もつと知ってほしい  
**造血幹細胞移植**のこと  
Hematologic Cancers

■多発性骨髄腫のこと  
<http://www.cancernet.jp/hematologiccancer/myeloma>  
■造血幹細胞移植のこと  
<http://www.cancernet.jp/hematologiccancer/htc>

BEC 認定者活動状況ページ QR コード▼



今年も、8か月近く学んだ第12期BECの卒業式に当たる全体発表が、3月11日、東京八重洲ホールにて行われました。治療中の患者さん、看護師さん、すでにピアサポーターとして活躍中の方など、再受講生も含めて50名の方が受講し、新たに30名の方がBEC12期として飛び立ちました。これからの御活躍を期待しています。

また昨秋は、青森県の事業であるがんピアサポーター研修会にBEC講師を派遣し、二回にわたりピアサポーター概論、事例研究、ワークショップを開催しました。今後も都道府県との共同事業としての役割も果たしていきたいと考えております。

本講座は、ピアサポーターなどの患者支援を志す人、看護師・製薬企業にお勤めの方など、様々な立場の方が受講していらつしゃいます。

2017年度第13期BEC養成講座のお申込みは、5月8日(月)開始予定、開講は7月6日(木)を予定しております。たくさんの方のチャレンジ、お待ちしております！BECの最新情報はFacebookで、BEC認定者活動状況は、HP内(<http://www.cancerne.jp/training/becca-activity/>)にて発信中です。

## 「第12期乳がん体験者 コーディネート養成講座」終了

2017年1月から横浜市立市民病院で、がん体験者による相談「ピアサポート」を開始しました。現在、CNJからサポーターの派遣を行っている施設は下記の通りです。

実施施設	日時	問い合わせ先	相談形式	予約
横須賀共済病院	毎週木曜 10時～15時	046-822-2710	面接相談のみ	不要
済生会横浜市南部病院	毎週月・金 11時～16時	045-832-1111		
大和市立病院	毎週金曜 10時～14時半	046-260-0111		
藤沢市民病院	第1・3水曜 第2・4木曜 11時～16時	0466-25-3111 (内線 3187)		
横浜市立市民病院	第2金曜・第4水曜 11時～16時	045-331-1961		
相模原市	第2・4日曜 10時～15時	健康企画課 042-769-8322	電話または面接相談	完全予約制
★ピアサポートよこはま	下記参照	045-681-5255		

★ピアサポートよこはま (横浜市市民活動協同オフィス：横浜市市民活動支援センター 5階)

電話相談：水・金曜 10:00～14:30

面接相談 (県民活動サポートセンター 12階相談室)：完全予約制、第2・第3月曜 13:30～16:00

少人数でゆっくり話し合える会 (県民活動サポートセンター 12階相談室)：完全予約制、第4月曜 13:30～15:30

電話相談・予約は045-681-5255(水・金曜 10:00～14:30)までお問い合わせください。

## がん体験者による、 がん患者・家族のためのピアサポート 横浜市立市民病院でのサポート開始



昨年10月にGapが乳がんサバイバーの支援を目的とし実施した「ピンク色の未来をつくらう」キャンペーンで集まった寄付1,076,850円をCNJにいただきました。CNJでは、その一部を今年1月に開催された、若年性乳がんサポートコミュニティピンクリングサミット2017に特別協賛させていただきました。また、今年「若年性乳がんおしゃべり会 全国キャラバン」を開催いたします。日頃、周りに同世代の乳がんサバイバーがいなくて孤独を感じている皆さん、一緒におしゃべりしませんか。開催日、開催地域については、今後CNJのWEBサイト、SNSなどでお知らせしていきます。

## Gapのチャリティキャンペーン 「ピンク色の未来をつくらう」の寄付で 若年性乳がん患者さんを 支援

## 岐阜県岐阜市にて 胃がん市民公開講座開催

1月28日(土)岐阜市じゅうろくプラザホールにて、日本イーライリリー株式会社協賛のもと、NPO法人がんサポートセンターの皆さんのご協力を受け、「もつと知ってほしい胃がんのことin岐阜」を開催いたしました。当日は330名の参加があり、「胃がん治療の最新情報を楽しく学ぶことができたい」との感想が複数ありました。フリーアナウンサー中井美穂さんによる快活な司会進行、岐阜大学名誉教授 佐治重豊先生による開会宣言、岐阜県健康福祉部保健医療課長の小山貴広さんより岐阜県の胃がん検診の現状を伺い、岐阜大学病院の吉田和弘先生より手術と薬物療法、荒木寛司先生より予防と内視鏡治療、田中善宏先生より治療効果を最大限引き出すために必要な栄養について、詳しくお話しいただきました。サバイバーの高橋和奈さんの体験談と歌へは「勇気づけられた」と感謝の言葉が添えてあるものが多く、後半のQ&Aトークセッションでは、会場から多く寄せられた質問に、登壇者から明快な回答をいただきました。51,100円の寄付が集まり、会場で配布した冊子も好評でした。



## 2017年も各地で開催 ブルーリボンキャラバン 「もつと知ってほしい大腸がんのこと」

2月4日、通算31回目となるブルーリボンキャラバンを富山県のアンバサダー、細川歩先生、小竹優範先生と共に開催しました。石川県のアンバサダーでありご自身もがん闘病中の西村元一先生にもご登壇いただき、『医師の説明が、分からない時は分からないと伝えること。治療選択は自己責任。一日一日を大切にすること。』など、メッセージをいただきました。当日は、400名を超える参加者があり、ブースエリアも大変賑わいました。

大腸がんの国際的な啓発月間である3月。今年も東京医科大学 科大学 M&Dタワー2F 鈴木章夫記念講堂にて、ブルーリボンキャラバンを開催しました。司会は、フリーアナウンサーの中井美穂さん。アンバサダーの杉原健一先生、石黒めぐみ先生、上野秀樹先生、山口研成先生らと共に開催いたしました。当日は、522名の方に参加いただき、こちらもさまざまなブース出展があり、盛会にて終了しました。2017年度は、呉市、高知市、札幌市で開催が決定しました。是非、ご来場ください。



がん治療に伴う外見変化への治療的・整容的対処法の手引き、遂に登場!

## がん患者に対する アピアランスケア の手引き 2016年版

国立がん研究センター研究開発費  
がん患者の外見支援に関する  
ガイドラインの構築に向けた研究班 編

がん患者に対する  
アピアランスケア  
の手引き

定価(2,500円+税)  
ISBN978-4-307-70200-3

子宮頸がん、子宮体がん、卵巣がん治療の正しい  
情報が得られる書、待望の改訂!

## 子宮頸がん・ 子宮体がん・卵巣がん 治療ガイドライン 第2版

日本婦人科腫瘍学会 編



定価(2,500円+税)  
ISBN978-4-307-30125-1



創業明治8年 医学専門出版社

**金原出版**

<http://www.kanehara-shuppan.co.jp/>

〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-14 TEL 03-3811-7184(営業部直通) FAX 03-3813-0288

開催協力&CNJブース出展

東京医科歯科大学 「がんを考える」  
市民公開講座

1月15日(日)、東京医科歯科大学 鈴木章夫記念講堂にて、第3回東京医科歯科大学 「がんを考える」市民公開講座が開催されました。セミナーでは、『がん治療を「選ぶ」ためのヒント』『あなたのがん治療に必要な「支える」は?』など、医師、看護師からさまざまな講演があり、参加者の皆さんは熱心にメモを取られていました。CNJブースでは、「もつと知ってほしいシリーズ冊子」約20種類をご用意し、大変好評をいただきました。



開催協力&CNJブース出展

日本大学医学部附属板橋病院・帝京大学  
医学部附属病院 合同市民公開フォーラム

3月11日(土)、帝京大学 臨床大講堂にて、第7回日本大学医学部附属板橋病院・帝京大学医学部附属病院 地域がん診療連携拠点病院 合同市民公開フォーラム(テーマ:前立腺がん・大腸がん)が開催され、来場者全員に「もつと知ってほしい冊子シリーズ」の、前立腺がんのこと・大腸がんのことをプレゼントし、ブース出展をさせていただきました。



NPO法人

近畿がん診療推進ネットワーク主催  
「がん患者・家族に  
必要な支援とは」

必要な支援とは

1月21日(土)、大阪ブリーゼプラザ小ホールにて、NPO法人近畿がん診療ネットワーク主催、7大学連携先端がん教育基盤創造プログラム共催の、医療者対象のシンポジウム「がん患者・家族に必要な支援とは」が開催され、CNJは運営協力をさせていただきました。当日は112名の方にお越しいただき、盛会にて終了いたしました。MBS毎日放送の高井美紀アナウンサーの司会で、医療者が患者になって、また、患者家族になってなど、様々な立場からのご講演をいただきました。また、基調講演として、19歳の若さで肝臓がんに罹患された山下弘子さんより、「がん経験を通して医療者に伝えたいこと」というテーマで心に響くお話しをいただきました。「各サバイバーの方々の本音での講演に感動しました」「医療者と患者の考え違いを埋めることは困難だが、患者さんにとつての最善を考えることが大事」「医療者という壁をなくし、人々であることを常に忘れず日々業務につかなくてはならないと思いました」などのご意見を頂戴し、多くの医療者の方がこのような機会を望んでいらつしやることを実感いたしました。



レモネードスタンドBAR

@CNJ東京事務局  
にて開催

1月12日(木)、CNJ東京事務局にて、小児がん支援のレモネードスタンドを開催いたしました。当日は、小さなお子さまをはじめ、サバイバーの皆様、ご家族、先生方、20名以上の方にご参加いただき、30,000円のご寄付が集まりました。2月の「国際小児がん月間」を前に、これまで全国で開催したレモネードスタンドの写真を見ながら、アットホームな雰囲気の中、なごやかな会となりました。皆さまもぜひレモネードスタンドを開催しませんか?



■レモネードスタンドジャパン <http://www.lemonaestand.jp/>

## 日本臨床腫瘍薬学会学術大会 (JASPO) 2017 市民公開講座 開催

3月19日(日)新潟県の朱鷺メッセコンベンションセンターにて日本臨床腫瘍薬学会学術大会2017市民公開講座「がんと生きる時代」薬剤師が紡ぐ「医療」が開催され、300名を超える方が参加いたしました。総司会会はフリーアナウンサーの中井美穂さんが務められ、日本臨床腫瘍薬学会の遠藤一司理事長、齊藤真一郎大会長の挨拶で始まり、特別講演では、日本医科大学付属武蔵小杉病院 腫瘍内科の勝俣範之先生が巷にあふれるジャンク情報から、正しい医療情報の見分け方について、具体例をあげながらわかりやすく解説されました。続けて杏林大学大学院精神看護学客員教授の川名典子先生と新潟県立がんセンター 薬剤師の吉野真樹先生が、医療者と上手にコミュニケーションをとるコツについて話されました。また、薬剤師で慢性骨髄性白血病サバイバーの久田邦博さんは、働き盛りでがんに罹患したときの心の葛藤や、それを受け入れ、今もがんと共に生活している自身について、またノンフィクションライターの川上澄江さんは、自身の母親ががん治療中に、家族の立場としてどのように向き合ったかなど、それぞれ自身の経験を通じての気づきなどを話されました。また、最後に Bitter & Sweet という田崎あさひさん、長谷川萌美さんの二人組ユニットがライブを行い、会場を盛り上げました。参加者からは、「各講演非常に勉強になりました。司会の中井美穂さんのコメントも非常に鋭く明快で素敵でした」「医療者とのコミュニケーションのとり方、インターネットの情報の信ぴょう性について自分のがんの治療をする前に知りたかったです」「思っていたより時間が進むのが早く、中身の濃い内容に出逢うことができて大変良かったと思います」など好評をいただきました。



## 第4回 Over Cancer Together (OCT) 「がんサバイバー・スピーキング・ セミナー」開催

3月25日(土)、東京・マイステイズ御茶ノ水コンファレンスセンターで、OCT「がんサバイバー・スピーキング・セミナー」を開催いたしました。

本セミナーは、がんサバイバーが自らの体験を発信する活動を行うために、必要な知識やスキルを学ぶことを目的としております。2013年の開催から第4回目となる今回は、全国から90名以上の応募があり、その中から選考された20代から60代までのがんサバイバー、遺族の方、30名が参加しました。

プログラム前半では医療者、メディア、サバイバー等、がんに関係する様々な立場の方から講演いただき、がん対策における患者の役割、期待されていることを理解した上で、後半では、体験談の組み立て方、話し方を学び、グループごとにワークショップを行いました。これまでのOCT卒業生も、全国各地で活躍されており、その卒業生の体験談と活動報告もお話いただきました。この日が、第一歩を踏み出すきっかけになれば、と願っております。



CNJでは、OCT修了生の講師派遣も行っております。詳細は以下ウェブサイトをご覧ください。

■ OCTウェブサイト  
<http://www.octjapan.jp/>  
■ 講師派遣のご依頼  
<http://www.cancernet.jp/speaker/>

## 「こだけ」のお話聞けるクロズドセミナー OMCE ~ ONCOLO Meets Cancer Expert ~

OMCEシリーズ開始から通算13回目となる1月は、日本医科大学武蔵小杉病院 腫瘍内科教授、外来化学療法室室長の勝俣範之先生による「がん医療のウソ・ホント イカサマ医療とは?」、2月の14日は慶應義塾大学医学部附属先端医学研究所の河上裕先生「がんに対する免疫療法最新線」で、2回とも定員を上回る55名の方にご参加いただき、会場は熱気に包まれ、質疑応答の時間も大変盛り上がりました。

3月の15回目では、「長足の進歩を遂げる肺がん医療の最新線とは?」とのテーマで、北里大学医学部附属新世紀医療開発センター教授、北里大学病院集学的がん診療センター長の佐々木治一郎先生にご講演いただきました。肺がんの治療も近年進歩が目覚しく、佐々木先生からは、肺がんの薬物療法の歴史、特定の遺伝子の変異に対して著効する薬剤の情報をはじめ、最新の情報を講義いただき、34名の参加者の皆さんからは、レベルの高い質問を多くいただきました。





「まれ」な「がん」のことを「希少がん」といい、人口10万人あたり6例未満のがんのこととされています。その種類は200にも及ぶと言われています。そのような背景から、情報も少なく、また病気や治療について学ぶ機会も少ないのが現状です。1月から、CNJでは国立がん研究センター希少がんセンター、がん情報サイト「オンコロ」と協力・連携し、希少がんセミナーを開催しています。1月～3月は、悪性黒色腫（メラノーマ）、GIST（消化管間質腫瘍）、肉腫（サルコーマ）の総論についてお届けしました。参加者からは、「エキスパートの先生から貴重な話を聴けただけでなく、患者会の方のお話もあつてとても参考になった」「関係者の方が真摯に対応する姿を見ることができた」「前向きに治療を進める希望が持てた」などの声をいただきました。セミナーは、毎月第2金曜日に開催し、講義動画も順次公開しています。



希少がんセミナーを毎月開催しています  
 希少がんを知り、学び、集う  
 Meet the Expert  
 悪性黒色腫（メラノーマ）、GIST（消化管間質腫瘍）、肉腫（サルコーマ）の総論



2月26日（日）、NPO法人愛知キャンサーネットワークと共催にて、医療者向けイベントを開催しました。医師、製薬企業担当者、新聞記者、サバイバーと、それぞれの立場から講演いただき、その後、全員でディスカッションを行いました。参加者からは、「それぞれの立場の意見があり勉強になりました。問題の解決には多職種でのチームでの取り組みが必要だと感じました。」「お金のことはあまり考えたことがなかったので良い問題提起を頂いたと思います。いろんな問題を含んでいて、すぐ解決できないことを話し合うことは大切だと思います。」などの感想が寄せられ、皆で、医療環境を考える場となりました。

NPO法人愛知キャンサーネットワークと共催  
 高額化するがん治療費を考える  
 新薬は患者の希望の光か、  
 国を減ぼすパンドラの箱か

早く治ってほしいという  
 願いを、チカラに。  
 Science For A Better Life

<http://byl.bayer.co.jp/> バイエル薬品株式会社

## 希少がんを「知り」「学び」「集う」セミナー！ 希少がん Meet the Expert

“まれ”な“がん”のことを“希少がん”といい、人口10万人当たり6例未満のがんのこととされています。その種類は200にも及ぶとされています。そのような背景から、情報も少なく、また病状や治療について学ぶ機会も少ないのが現状です。希少がん Meet the Expertは、国立がん研究センター希少がんセンター、認定NPO法人がんネットワークジャパン、がん情報サイト「オンコロ」が協力・連携し、毎月第2金曜日に開催するセミナーです。

**04/14**  
(金)  
東京

**第4回：悪性胸膜中皮腫** ※申込みは締め切りました。  
開催日/4月14日(金) 時間/19:00-20:30 (開場18:30)  
場所:国立がん研究センター中央病院 1F  
希少がんセンター待合

講師: 国立がん研究センター中央病院 呼吸器内科 / 希少がんセンター 後藤 穂先生

**05/12**  
(金)  
東京

**第5回：胚細胞腫瘍**  
開催日/5月12日(金) 時間/19:00-20:30 (開場18:30)  
場所:国立がん研究センター中央病院 1F  
希少がんセンター待合

講師: 国立がん研究センター中央病院 乳腺・腫瘍内科 下井 辰徳先生

**06/09**  
(金)  
東京

**第6回：肉腫(サルコーマ)～四肢の肉腫～**  
開催日/6月9日(金) 時間/19:00-20:30 (開場18:30)  
場所:国立がん研究センター中央病院 1F  
希少がんセンター待合

講師: 国立がん研究センター中央病院 骨軟部腫瘍・リハビリテーション科 / 希少がんセンター 小林 英介先生

**07/14**  
(金)  
東京

**第7回：胸腺腫・胸腺がん**  
開催日/7月14日(金) 時間/19:00-20:30 (開場18:30)  
場所:国立がん研究センター中央病院 1F  
希少がんセンター待合

講師: 国立がん研究センター中央病院 呼吸器内科 / 希少がんセンター 後藤 穂先生

## がん医療の専門家から本音が聞ける 50名限定！究極のがん情報セミナー ONCOLO Meets Cancer Experts

毎回、収録は行なわず、ご来場いただいた方限定の「ここだけ」の情報をお届けしています。講師による講演後、ディスカッショントーク、その後、会場からのQ&Aセッションと盛りだくさんの1時間半です！ぜひ、お申し込みください。

**04/28**  
(金)  
東京

**第16回：乳がん薬物療法の進歩 - ホルモン療法を中心に -**  
開催日/4月28日(金) 時間/19:00-20:30  
場所:ジーニアスセミナールーム

講師: 公立大学法人 福島県立医科大学 腫瘍内科学講座 主任教授 佐治 重衡先生

**05/26**  
(金)  
東京

**第17回：乳がん治療の進歩乳がん治療の進歩- 抗がん剤・分子標的薬剤、免疫チェックポイント阻害薬を中心に -**  
開催日/5月26日(金) 時間/19:00-20:30  
場所:ジーニアスセミナールーム

講師: 昭和大学病院 腫瘍内科 診療科長 教授 佐々木 康嗣先生

**06/23**  
(金)  
東京

**第18回：小細胞肺癌がん医療・治療の現状。  
小細胞肺癌がんは忘れられたがんか？**  
開催日/6月23日(金) 時間/19:00-20:30  
場所:ジーニアスセミナールーム

講師: 近畿大学医学部内科学 腫瘍内科部門 主任教授 中川和彦先生

**07/21**  
(金)  
東京

**第19回：血尿で見つかる膀胱がん。  
その治療の現状と最新の話題を知る**  
開催日/7月21日(金) 時間/19:00-20:30  
場所:ジーニアスセミナールーム

講師: 慶應義塾大学 医学部泌尿器科教室 専任講師 菊地 栄次先生

## 大腸がん疾患啓発活動ブルーリボンキャラバン 広島県、高知県、北海道にて開催します

大腸がん疾患啓発活動「ブルーリボンキャンペーン」では、大腸がんの診断・検査から、また外科的治療・薬物療法について広く一般の皆様を知って頂くことを目的としています。

**07/02(日)**  
in 呉  
くれ絆ホール

**09/02(土)**  
in 高知  
高知県民文化ホール  
グリーンホール

**11/05(日)**  
in 札幌  
北海道大学学術交流会館

## 第15回日本臨床腫瘍学会学術集会 (JSMO2017)のサポートをいたします

7月27日(木)～29日(土)に、岡山大学大学院医歯薬学総合研究科血液・腫瘍・呼吸器内科学教授の谷本光音先生が主宰されるJSMO2017で、患者・家族向けのプログラムをサポートいたします。

最新情報をわかりやすく学ぶ機会を提供し、神戸の学術集会会場と、岡山大学鹿田キャンパス内にある、Junko Fukutake Hallを中継で繋ぐ相互交流プログラムも企画し、患者会活動等についての発表も募集します。ぜひ、ふるってご参加ください(神戸会場への参加は事前登録が必要です)。

## 日本を代表するがんの専門家が日本橋に大集結 Japan Cancer Forum 2017

2014年から毎年8月に開催している患者・家族、市民向けのキャンサーフォーラム。2016年までの3年間で、のべ12,491名の方にご参加いただくことが出来ました。また、医療従事者の参加割合も増加し、患者・家族だけに留まらず、多岐に渡る方々にも参加していただきやすいイベントとなつたことが伺えます。

4年目の今年もテーマを「SHIN-新、真信-時代の幕開け」としました。最新のがん医療情報はもちろんのこと、真実のがん治療とは何か、また、それを追求する医療者、患者の信念にも触れる、正に一歩踏み込んだがん医療フォーラムとすべく、準備を行っています。詳細は随時、JCF特設ウェブサイト、SNS等で公開していきます。



**JCF2017**  
■開催日時  
8月19日(土)～20日(日)  
■開催場所  
コンgresクエア日本橋  
■特設webサイトURL:  
<http://www.cancernet.jp/jcf/2017>  
■Facebook URL:  
<https://www.facebook.com/JapanCancerForum>



**JSMO2017 患者・家族向けプログラム**  
■開催日時 7月27日(木)～29日(土)  
■開催場所  
①神戸会場(事前登録が必要です) 神戸国際会議場 4階PAP会場  
②岡山会場(申し込み不要、参加費無料)  
岡山大学鹿田キャンパス内 Junko Fukutake Hall  
■企画詳細・お申し込み  
<http://www.cancernet.jp/JSMO2017/>

# 海外がん医療 TOPICS

## 希少疾病用の治療薬開発支援

希少がんには肉腫や血液腫瘍など多くの種類があるものの、患者数が少ないために研究がなかなか進まず、治療選択肢が限られてしまう実態があります。米国では1983年に希少疾病用医薬品法を定め、米国内の患者が20万人未満のまれな疾病の治療薬開発の促進につとめています。

オーファンドラッグとも呼ばれる希少疾病用の医薬品は、前述の法律にもとづき①臨床試験費の税制優遇、②FDA(米食品医薬品局)への申請費用免除と優先審査、③通常より長い独占販売期間といったインセンティブが与えられています。さらにFDAは、オーファンドラッグ臨床試験助成プログラムを通して、希少疾患向け治療薬や医療機器等の開発で、承認につながるような臨床試験の財政支援もしています。

2015年だけでも、この助成金の支援を受けた5件の研究により、神経芽細胞腫、リンパ脈管筋腫症、副甲状腺機能低下症、および低ホスファターゼ血症の治療などで待ち望まれていた製品がFDA承認を受けました。これまでに590以上の新たな臨床研究と55以上の製品の市販承認で、3億7000万ドル以上の支援資金が希少疾病用の医薬品開発に提供されています。

2016年10月には、新たに21件のオーファンドラッグ研究開発に対する、総額2300万ドルの臨床試験助成金が発表されまし

た。がん研究を加速するためのNational Cancer Moonshot Initiativeを受け、新たな助成金の約4分の1はがん患者を登録した研究にあてられています。

### ■ 2016年にFDA助成が決まったがん関連のオーファンドラッグ臨床試験

- ・小児脳腫瘍治療用のHSV G207と放射線の第1相試験
- ・肝細胞がん治療用のPI-3キナーゼ/BRD4阻害剤SF1126の第1相試験
- ・神経芽細胞腫治療用のヒト化3F8 MoAbおよびNK細胞の第1相試験
- ・膠芽腫治療用のDNX-2401の第2相試験
- ・菌状肉腫における掻痒症治療用のナロキソンローションの第3相試験
- ・多発性骨髄腫治療用のONC201の第1/2相試験

情報提供/海外がん情報リファレンス

**医療用かつらデイリース**  
 全て新品  
 高品質の医療用かつらを  
 必要な期間だけレンタル  
 1日250円 (税別)  
 税込263円  
 最短1日からレンタルOK!  
 男性用 子供用 女性用

## ご挨拶

3月末日をもって、CNJの理事を退任致しました。10年に渡り、この職務にあたってきました。退任するにあたり2つの思いがあります。

一つは、社会の信頼を得るべく、様々なプロジェクトに取り組み、今では、多くの病院にCNJの刊行物が設置、利用され、NPOの役割を果たせたのではないかと思います。

一方で、二つ目に、音楽(ロックなど)を通じてチャリティー活動で薬剤開発に貢献することや、CNJが若い人にとって意義ある仕事ができる魅力的な就労の場(組織)になるといったことは、道半ばであり私自身の至らなさを感じています。

がん対策基本法成立から10年、まだまだCNJに課せられた役割があると認識しています。この紙面を借り、これまでお世話になった皆様への退任の挨拶とし、今

後もCNJへの変わらぬ支援をお願い申し上げます。



柳澤 昭浩  
(やなぎざわ あきひろ)

## ■ 事務局長 着任のお知らせ

4月1日より、木原康太が事務局長に着任いたしました。2015年4月より2年間、事務局長を務めた理事の川上祥子は、常務理事(事務局専任)となり引き続き事務局を監督してまいります。時代の新たな要請にこたえていくため、理事会機能をより強化し、活動事業、事務局運営を見直し、新体制にて2017年度に臨みます。皆様におかれましては、変わらぬ御支援と御指導を賜りますようお願い申し上げます。

より良い薬を未来に届けるため、私たちは薬の開発を進めています。

治験（臨床試験）は開発中のお薬の安全性や効果を確認する重要なステップです。

また、現在の治療法では効果が不十分な方にとっては、治療の選択肢の一つとなるかもしれません。

ただいま、下記の治験にご参加いただける方を募集しています。

未来に薬を届けるため、現在のあなたの治療の一つとして、治験に是非ご協力ください。



治療歴がある方対象の治験

## 進行性肝細胞がん対象 第III相試験のご案内

血管新生阻害薬を使用する治験

治験情報の詳細はこちら

<https://oncolo.jp/ct/clinical-trials/ad0020>



治療が初めての方対象の治験

## 進行性肺がん対象 第III相試験のご案内

血管新生阻害薬を使用する治験

治験情報の詳細はこちら

<https://oncolo.jp/ct/clinical-trials/ad0019>



お問い合わせはこちら

掲載情報のお問い合わせ 平日(月~金) 10:00 ~ 18:30



0120-974-268

<https://oncolo.jp>

オンコロ

検索



イメージキャラクター  
オンコロくん

全国各地の医療機関で実施しています。詳しい実施医療機関情報につきましてはお電話でお問い合わせください。